

第 1 章

英英辞典への いろいろな入り口

■ Introduction

ネイティブ話者たちは英語を身につけるために、英和辞典や英和単語帳は使いません。

—— バカ、そんなの、当たり前だろ！

だったら、なぜあなたは英和辞典や英和単語帳を使うのでしょうか。

中学生のころから惰性（だせ）でやってきた学習法を疑ってみませんか。

英英辞典は、ネイティブ話者のありかたに近づいて、日本語抜きで英語を学ぶためのツールです。

関東人なのに、なぜ関西弁がわかるのか

「花見で人がぎょうさん居てるな」

「ほんまや、ぎょうさんな人出(ひとで)やで」

関西弁のやりとりですが、関西出身でない日本人も即、理解します。「ぎょうさん」を「たくさん」、「ぎょうさんな」を「多くの」と、頭の中で翻訳したりはしません。

関東で生まれ育った人は「ぎょうさん」とは言わない。その意味では「ぎょうさん」は外国語のようなもの。でも「ぎょうさん」の意味を辞書でひいて学んだ人はまずいないでしょう。「ぎょうさん居てる」「ぎょうさんな人出」が理解されるのは、関西の役者・芸人さんたちのおかげかもしれません。関西出身でない日本人もドラマやお笑い番組で「ぎょうさん」が使われる状況(=適切な用例)に何度も触れたから、いちいち頭のなかで翻訳することなく「ぎょうさん」の意味を理解できる。

「ぎょうさん」は漢字で「仰山」。立派な日本語なわけですが、「外国語がわかる」ことのたとえ話のネタとして使いました。「ぎょうさん居てる」を「たくさんいる」といちいち訳することなく、そのままの形で理解する——英語学習も、そうありたいですね。

英語の単語・表現を見聞きするたびに日本語の訳語が脳の中でチカチカと点滅し、和文が毛虫のように脳をはいずりまわる——これでは、せっかく「英語をやっている」はずなのに、まるで鈍重な暗号解読です。「英語を読んでいる」はずなのに、脳に瞬時に浮かぶのは英単語とヒモツキの和訳あれこれ——これでは英語がおもしろくなるはずがありません。

英単語ごとに和訳をあてて文を理解するやりかたは、最初のうちは仕方ないでしょう。でも英語学習のターゲットはけっして、**英単語と和訳をせっせとペアで覚えていくことではない**はず。英語

ネイティブが英語を使うとき、「英単語を見聞きするたびに和訳を思い浮かべる」なんてことは、ありえないわけです。日本語ネイティブのわれわれも、基本の英単語を2,000語ていど身につけたあとは、できるだけ**英単語にまわりつく和訳を切り離す**。**英単語を日本語から解き放つ**。英単語が、日本語を経由することなく、そのままイメージへと結びつく。やさしい英語へと言い換え表現が浮かんでくる——これを英語学習の目標にしたいです。

英英辞典は、英単語を日本語から解き放つツールだ

動物や植物、身のまわりのモノや料理名の英単語。そういう単語なら、Google 画像検索を使えば英単語とイメージをじかに結びつけることができます。写真を見れば一目瞭然ですね。和訳からはおさらばです。

モノだけではありません。例えば precarious という形容詞。Google で画像検索すると「突き出た場所で塗装作業をする作業員」「指でちょっと押せばすぐに崩れそうな石積み」「高いところでアクロバットをする芸人」などの危なっかしい写真がいっぱい出てきて、precarious の意味を和訳なしで教えてくれます。



picnic と hiking —— ピクニックとハイキングって、どこがどう違うのでしょうか。この質問をすると、わたしがやっている英語教室の受講者の皆さんはたいてい口ごもるのですが、Google 画像検索なら一発です。picnic を画像検索すると、緑地に敷物を置いて色とりどりの食べものを並べた写真がいっぱい。hiking を画像検索すると、リュックをかついで登山道を歩く人々の列。

こうやって、すべての英単語の意味が Google 画像検索で氷解すれば御の字ですが、なかなかそういうわけにもいきません。

そこで万能ツールとしておすすめしたいのが、英英辞典。

昔ながらの紙の辞書から、電子辞書版、さらには PC やスマホで使えるウェブ版、そしてスマホ用のアプリもあります。

英英辞典を使うと、英和辞典よりも時間を食う。それは事実です。とくに、英英辞典に入門したてのころは！ 語釈 (= 単語の意味説明) を読むのに時間がかかるし、語釈だけではいまひとつピンと来ないので例文にも目を通さざるをえない。

TOEIC にも英検にも英文和訳問題はない

でも、急がば回れ。英英辞典を使うことで、知らず知らずに **TOEIC 対策・英検対策がバッチリできてしまう**こと、知っていましたか。

TOEIC にも英検にも、英文和訳の問題はゼロ。では受験者の語彙力を TOEIC・英検はどうやって測っているのでしょうか。英単語を和訳するのではなく英語で言い換えて、それを四択問題に盛り込むことで受験者の語彙力をみるのです（「四択問題」の例は第3章をご覧ください）。英語を英語で言い換える —— まさに英英辞典がやっていることです。

このからくり気づかず、英和辞書や英和単語集だけで勉強しては、いつまで経ってもスコアを伸ばす取っ掛かりがつかめない。

英英辞典を使って TOEIC・英検コンプレックスを乗り越えたいです。

英英辞典には、さまざまな種類があります。ネイティブでない学習者向けに作られた英英辞典なら、2,000 語ほどの基本単語だけを使って語釈が書かれていて、高校2年以上なら使いこなせてほしい。優秀な生徒さんなら中学3年になったら挑戦してみたい。いっぽう、ネイティブ向けの辞書となると、語釈がやたらむずかしくたり発音記号が省略してあったり。

英英辞典は、入り方を間違えると挫折します。

わたし自身は、根っからの語学好きでありながら入り方を間違え、英英辞典を常用するようになったのはなんと36歳になってからでした。初めて英英辞典を手にしたのは高校生のときでしたが、辞書の選択を誤って挫折。大学に入って、またまた挫折。商社で勤務しつつ、また挫折。三度も挫折してトラウマ続きの英英でしたが、1995年にすてきな英英辞典に出会ってからは身近なところに英英を置いて英語力も一段と伸びました。この辺の詳しい話は、第7章～第8章をお読みください。

読者の皆さんには、**挫折することなく英英辞典の世界に入り込んでほしい**のです。ぜひとも、その手助けをしたいと思います。初心者向けの英英辞典を重点的に取り上げています。

英英辞典への入り方、4つのポイント

ひょっとして、いまどき辞書を語るのは、時代への逆行でしょうか。日本経済新聞で教育問題を取り上げるページのコラム「受験考」（2022年9月6日付）は、こんな出だしです：

「英語を指導していると、以前に比べ辞書を使う中学・高校生が減ったと感じる。そもそも英和辞典を持っていない中学生もいる」